

# 緩和ケア研修会アンケート

開催日時：平成28年5月7日・8日

## ◆研修会の評価について

回答人数 40人

	全く良くなかった	あまり良くなかった	普通	良かった	非常に良かった
研修会の日時や会場は、良かったですか。			13	14	14

	全く添っていません	あまり添っていません	普通	添っていた	非常に添っていた
この研修会の内容は、あなたのニーズ・期待に添っていましたか。			7	20	13

	全く理解できなかった	あまり理解できなかった	普通	理解できた	非常に理解できた
この研修会のねらい、内容について理解できましたか。			3	18	19

	全く役に立たない	あまり役に立たない	普通	役に立つ	非常に役に立つ
この研修会で学んだことは、日頃の業務の中で役に立ちますか。			4	15	21

## ◆研修会を受講されてのご意見・ご感想をお聞かせください。

・研修医1年目の早い時期にこの研修会に参加し、薬品名などわからず、話についていくのに必死な部分もありましたが、逆にこの早い段階で緩和ケアの勉強ができたことは有難かったと思います。

・がん告知を実際患者として受けることで、告知の仕方に関して非常に勉強になった。告知の工夫をしたいと思う。

・患者さんが医療者に色々なことを語ってくれるようになるまでのコミュニケーションがとても難しいと感じた。しかし、とても大切だと思いました。

・講義とロールプレイが織り交ぜられ、とても良かったです。

・講義とワークショップ、ロールプレイなど様々な観点で治療や在宅ケアなどについて学ぶことができてとても役に立ちました。今後の診療に生かしていきたいと思います。

・緩和ケアの領域（ペインコントロールや、在宅支援等）は、他科、他職種の方に頼る部分が多かったが、自分でももう少し意識して、積極的に取り入れたいと思いました。

・スライド、説明が非常に分かりやすかったです。建設的な意見を尊重するスタイルが良かったです。

・実臨床上で、実際に経験するような対応などの背景と、具体的な薬剤の使用例など客観的に知ることができました。また、自らのコミュニケーション時の対応の改善点などを具体的に自覚することができました。有意義な機会ありがとうございました。

・100%在宅での緩和ケアができるとのことでしたが、独居老人の場合はどうするのか疑問に思いました。今後おそらく増加していくと思いますので、その対策を講じる必要があるように思いました。

・いわゆる末期がんの患者にかかわる診療に携わっているが、これまで十分には対応ができていなかった事に回答を得られた点が多くあった。ただ、薬剤の使用などは経験がないから…と臆してしまうところもあると思う。在宅への道筋については、日頃から意識をもっておきたいと思った。

・疼痛コントロール、せん妄についての薬物についての説明が聞いて勉強になった。

・ご苦労様でした。

・在宅を多く取り入れて行っていきたい。

- ・時間的にはややタイトであったが、内容は全体的にまとまっており良かった。
- ・日常診療に役立つ内容でした。
- ・ロールプレイは必要ですが、予想以上に心理的にストレスになります。ロールプレイ分のリラクゼーションが何かあれば少し良いかもしれません。
- ・ロールプレイはいつになっても難しい。1度受講しても数年経過すると忘れてしまうので、定期的に受けるのが本当は良いのだと思う。実際の臨床で役立てられるかは不安があります。
- ・ロールプレイは大変ですが、有効なツールだと思いました。がん患者にかかわらず、普段の臨床に役立てたいと思います。在宅ケアの方法をもっと具体的に教えてほしいと思いました。
- ・日常診療で使うコミュニケーションスキルについては詳しく学ぶことができ、大変有意義であった。
- ・緩和ケアが必要な患者さんの診療に携わる機会が多いにもかかわらず、自分で積極的に対応せず、他科の先生やコメディカルの方にお任せしている部分が多かったため、緩和ケアについて学ぶことができ、良い機会でした。今後の診療に役立てます。
- ・緩和ケアについて、薬物治療から心のケア、在宅への支援など幅広くまとめて勉強することができて大変良かった。講義のみならず、グループワークやロールプレイが新鮮で普段とは異なる患者の役になるという経験がとても勉強になった。
- ・想像していたよりも充実して勉強になりました。が…やはり長いです。が…麻薬の使い方などを見通す良い機会になりました。
- ・緩和ケアの現状を知ることができてとても勉強になりました。
- ・ロールプレイングで患者さんの立場になって考えられたのが非常に良かったです。
- ・多くのDrが、緩和ケアについてのスタンダードな知識、技術を持つことで、終末期の部分で悩まされる方々がかなり減ってくると思います。本基本コースに加え、アドバンスコースもあると良いと思います。
- ・大変良かったです。ロールプレイで他科の先生の意見が聞けたり、患者さん側の気持ちを実感するような体験ができたのが特に良いと感じました。是非、他職種の方にも同様の研修を受けてもらえればと思いました。今後の診療に生かしたいと思います。有難うございました。
- ・緩和ケアという部分に、日頃からふれている部分、触れていない部分があると分かり、特に「触れていない部分」に関して認識できた部分が良かった。
- ・緩和ケアについての知識をしっかりと学ぶことができました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・2日連続の研修はやはり長いなと感じました。
- ・講義はやや単調で眠くなってしまう。ロールプレイなどは非常に印象に残った。
- ・緩和ケアで用いる薬剤について整理できていなかったため、各種薬剤に関する講義が特に実臨床に直結する形で役立てられそうです。ロールプレイについては難しかったですが、コミュニケーションのロールプレイでは自身の話すテンポや話し方を見直す機会となりました。
- ・ロールプレイや、グループディスカッションなど、普段あまり経験しないことができ、良かった。
- ・コミュニケーションのロールプレイで画一的なやり方を練習する必要はないのではと感じた。診療科ごとのやり方が存在するし、現在において、ICにそこまで問題のある医師は淘汰されると考えます。
- ・他科の先生方の問診時、患者さんとのコミュニケーション、実際であった場面の事など様々な話が聞けて良かった。
- ・貴重な経験でとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても密な内容で明日からの診療に役立つものばかりでした。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・疼痛コントロールであったり、薬の選択というものが、どのように考えていくのかということがよく分かった。ロールプレイを通して、患者の気持ちをいかに聞き出すかという点は、これからに生かしていきたい。
- ・ロールプレイなどを通して、患者さんからの視点など普段とは異なる立場から考えることが出来、視野を広げることが出来ました。悪性腫瘍の告知など、今後自分が絶対に行わなければならない事であるので、今回学んだことを活かし、患者さんとの良好な関係を築くことができるようにしたいと思います。
- ・2日続きを、前半／後半の1日ずつ別に受講できるなどの工夫をしてもらえるとありがたい。
- ・がん診療のスキルと経験の差があるので、一律研修についてはかなり疑問

・大学病院は、緩和ケアに移行する際、紹介元となり、紹介を受けることは少なく、研修が勉強になった。研修会とは関連しないが、大学病院は稼働率upが率先して行われ、緩和ケアにおけるバックアップとしての病床の確保が困難であり、共通病床の利用や、入退院センターの介入など、医事的にも積極的な参入があればいいと思う。

- ・ロールプレイを通して日頃経験しにくい経験をすることができました。ありがとうございました。
- ・緩和ケアのいくつかの基礎知識の確認が重要

## ◆あなたが研修会を開催される立場となった場合、今回の研修会で改善をしたら良いと考えられる点がありましたら、お聞かせください。

・ロールプレイは非常に役立ったが、設定や時間が日常診療とは少し異なり、もったいない感じがしたので、少し変更してみると更に良いのではないかと思います。

- ・資料は、ホッチキスがなくて使いやすいです。
- ・現状で十分と思います。
- ・講師の皆さんありがとうございました。特に改善点はないように思います。
- ・グループワークやロールプレイングについては、もう少しスペースに余裕がほしいと思いました。
- ・丸2日は長い。
- ・緩和ケアとのことですが、症例がターミナルを意識した実例が多く、在宅医療もテーマにして欲しい。
- ・チューターには負担が大きいと思われる。
- ・実際には、最後の在宅支援に関する討議とその分の質疑の時間が長いほうが役立つ点が多いかもしれません。
- ・症例について、もう少し、消火器、肺、乳腺以外の悪性腫瘍についてあればよいと思った。（血液etc…）
- ・ロールプレイの時間が少し長いように感じた。薬物治療について、もう少し時間をとってゆっくり聞きたかった。
- ・ベテランDrと研修医がMIXで講習を受ける点…良い面とやりづらい面がありますね。
- ・グループ演習の際、回りががやがやしていてホワイトボードに書くべき内容が聞き取れないことがあった。
- ・特にありません。2日間ありがとうございました。
- ・実際のケースに近い、詳しいグループ学習会もあった方が良いでしょう。
- ・お昼ご飯の弁当が美味しくありませんでした。あれならホカ弁の方がまだましです。
- ・すぐには難しいかもしれないが、訪問看護ステーションの方々や、在宅支援のDrのお話が聞ける機会があればと思った。
- ・これ以上の改善は現在ではあまり考えられませんが、在宅の知識が我々には足りないもので、もう少し時間を割いても良いかと思いました。
- ・講義は30分以内にしてみる、テスト形式を挟んでいくと、分かっている事、分かっている事が出てくるのでは…
- ・具体的にどのように動けば在宅へ持っていけるのか、どのタイミングまでは各科で動くのか（疼痛コントロール、不安の対処など）、大学の医師が多いので具体例のハンドアウトがあると良いと思う。
- ・痛み、呼吸困難（嘔気）、消化器症状などの講義が大変参考になりました。導入の講義を少し省略されてこれらをより内容をふくらませていただく方法もあるかと思いました。
- ・話す内容が重複していることがあったので、その部分を削り、薬剤のチョイスの仕方、容量、機序、ケアの種類、申請の仕方などより具体的かつ各論の部分を増やしたいと思います。
- ・学会等を利用して、WORKING（ロールプレイ）は地元で、座学は学会単位の利用を考えることで拘束感を減らしたい。
- ・この研修会の継続を図るのであれば、専門医制度とLINKさせたい。
- ・昼食は、各自持参or外出でも良いと思いました。